

水と緑の森づくりに関する県民意識調査について

令和3年度までとなっている「水と緑の森づくり税」の課税期間の延長を含め、今後の森づくりの取組みについて検討を行うため、県民意識調査を実施。

1 調査手法及び回収数

		今回	前回 (H27)
調査期間		12月5日～14日 (10日間)	11月7日～16日 (10日間)
対象者数	県民	2,500 (20歳以上の男女、無作為抽出、郵送返送方式)	
	企業	1,000 (商工会議所役員・経済同友会会員・その他無作為抽出、郵送返送方式)	
有効回答数 (率)	県民	1,303 (52.1%)	1,415 (56.6%)
	企業	446 (44.6%)	488 (48.8%)

2 調査内容

調査項目	内容
(1) 森林の機能	①重要と考える森林の機能
(2) 森林の現状	②森林の荒廃状況
(3) 県民参加の森づくり	③各森づくり事業の継続の賛否 ④森づくりへの参加経験、今後の参加意識
(4) 税の新たな用途	⑤新たな課題への対応について
(5) 森づくり税	⑥森づくり税の延長の賛否 ⑦個人分負担額 ⑧法人分負担額
(6) 自由意見	自由意見記述

3 主な調査項目の結果 (詳細は別紙のとおり)

(1) 「水と緑の森づくり税」を活用した各事業について

県民・企業とも、「今後も取り組むべき」とする人の割合が9割程度と高い。

(2) 「水と緑の森づくり税」の新たな用途[※]について

※クマ等の野生動物の移動経路となっている里山林の整備や、住民だけでは里山林の維持管理が困難な地区への支援など

《県民》条件付を含め、94.8%が賛成 (前回92.9%より、1.9ポイント上昇)

《企業》条件付を含め、94.4%が賛成 (前回93.7%より、0.7ポイント上昇)

(3) 「水と緑の森づくり税」の期間延長について

《県民》条件付を含め、96.1%が賛成 (前回95.3%より、0.8ポイント上昇)

《企業》条件付を含め、97.1%が賛成 (前回96.5%より、0.6ポイント上昇)

(4) 「水と緑の森づくり税」の負担額[※]について

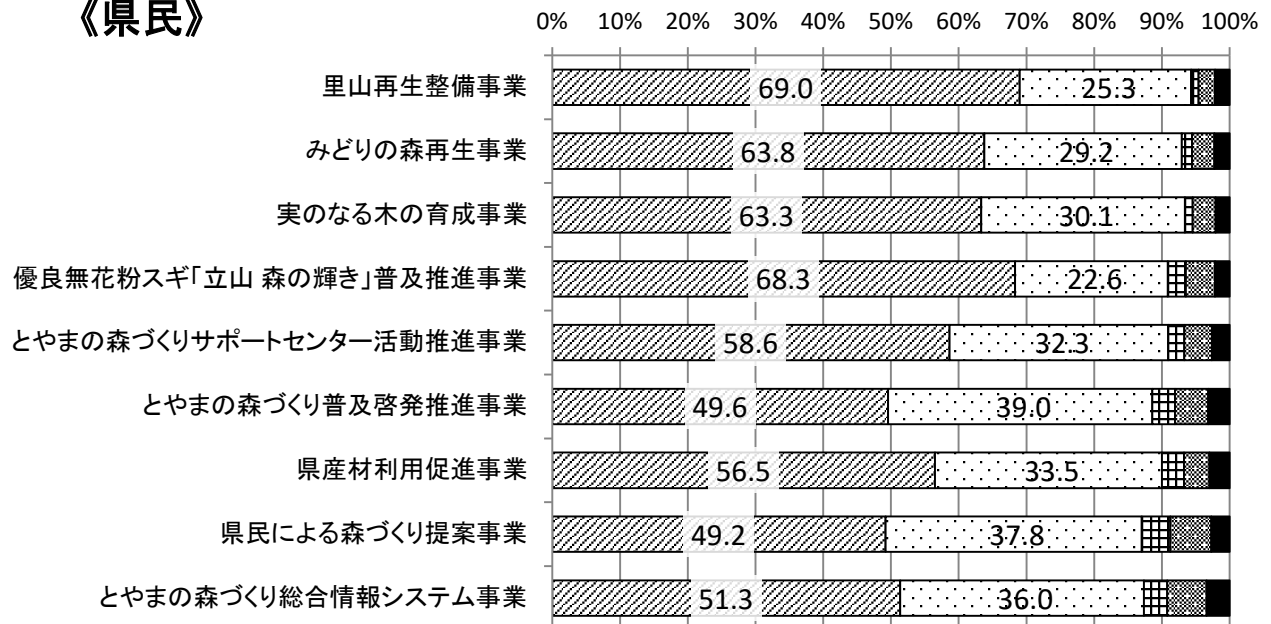
※県民は個人負担額、企業は法人等負担額

県民、企業とも、「今までと同じ」とする人の割合が最も多い。

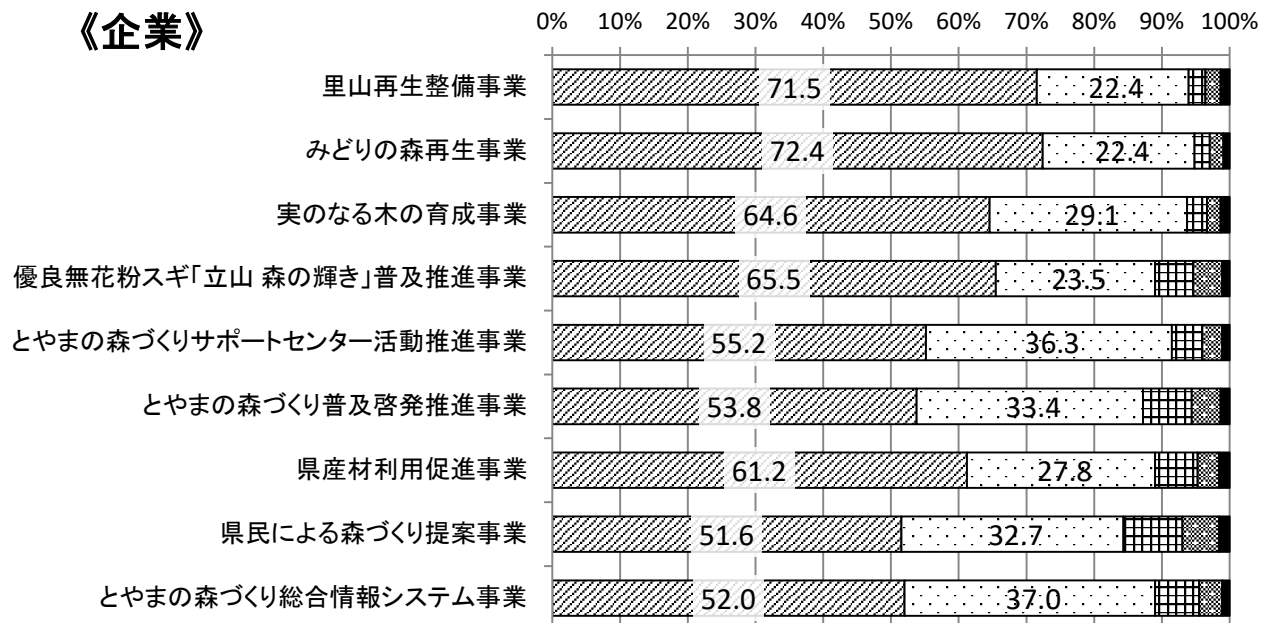
(1) 「水と緑の森づくり税」を活用した各事業について（1つ選択）

- 各事業とも「これからも継続して取り組むべき」と「内容を充実して取り組むべき」を合わせた人の割合が、県民、企業経営者とも9割程度と高い。

《県民》



《企業》



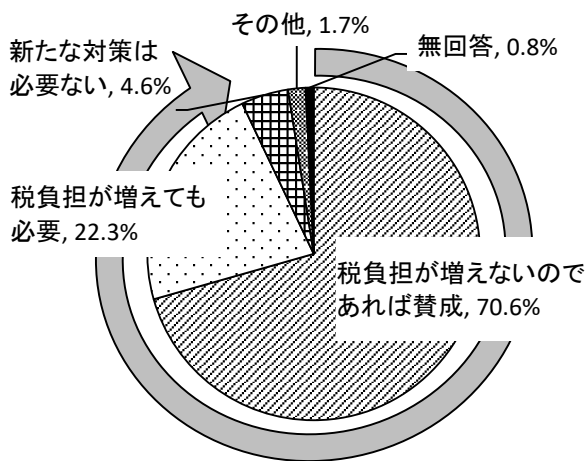
- ☑ これからも継続して取り組むべきである
- ☐ 内容を充実して取り組むべきである
- ☒ 一定の効果があったのでやめたほうがよい
- その他
- 無回答

(2) 「水と緑の森づくり税」の新たな用途について
 (クマ等の野生動物の移動経路となっている里山林の整備や、住民だけでは里山林の維持管理が困難な地区への支援など) (1つ選択)

- 「税負担が増えないのであれば賛成」と「税負担が増えても必要」を合わせた人の割合は、県民では94.8% (前回92.9%)、企業経営者では94.4% (前回93.7%) となっている。
- 特に、「税負担が増えても必要」とする人の割合が、県民では34.8% (前回22.3%)、企業経営者では45.3% (前回27.5%) と大幅に増加。

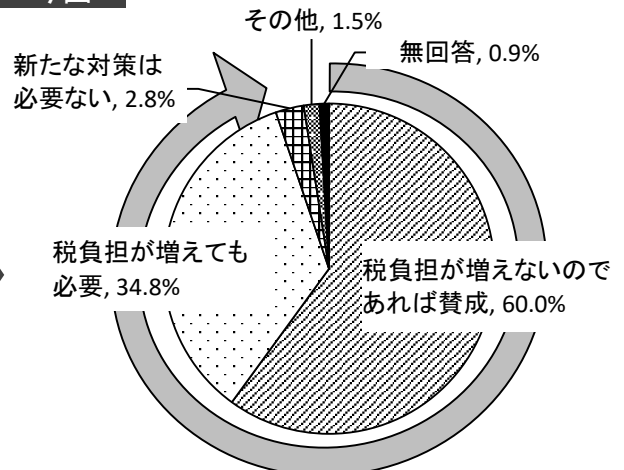
《県民》

前回



新たな対策を行うことについて、92.9%が賛成

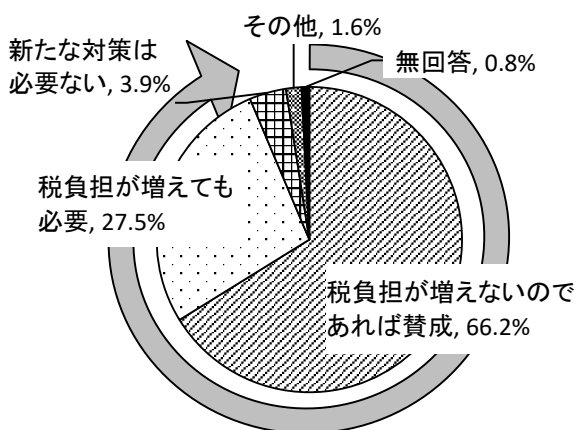
今回



新たな対策を行うことについて、94.8%が賛成
 (1.9ポイント上昇)

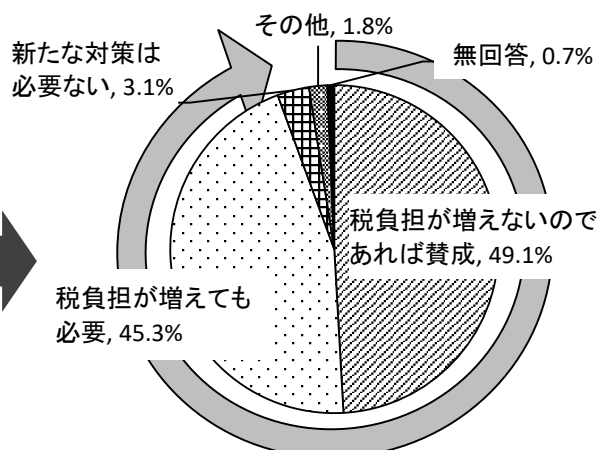
《企業》

前回



新たな対策を行うことについて、93.7%が賛成

今回



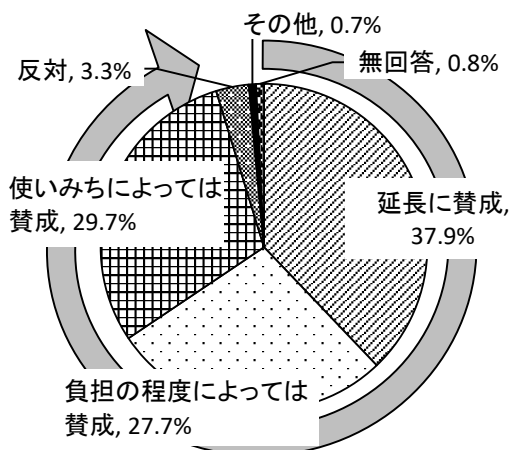
新たな対策を行うことについて、94.4%が賛成
 (0.7ポイント上昇)

(3) 「水と緑の森づくり税」の期間延長について（1つ選択）

- 条件付き（負担の程度、使いみち）を含め「延長に賛成」とする人の割合は、県民では96.1%（前回95.3%）、企業経営者97.1%（前回96.5%）となっている。
- このうち、無条件で「延長に賛成」とする人の割合が、県民では47.7%（前回37.9%）、企業経営者では45.3%（前回38.5%）と大幅に増加。

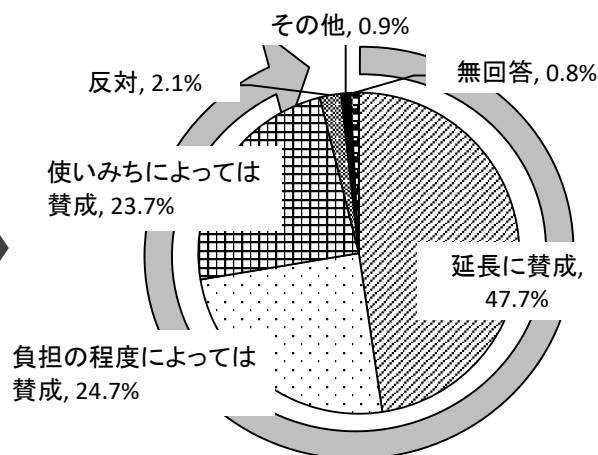
《県民》

前回



条件付きを含め、95.3%が延長に賛成

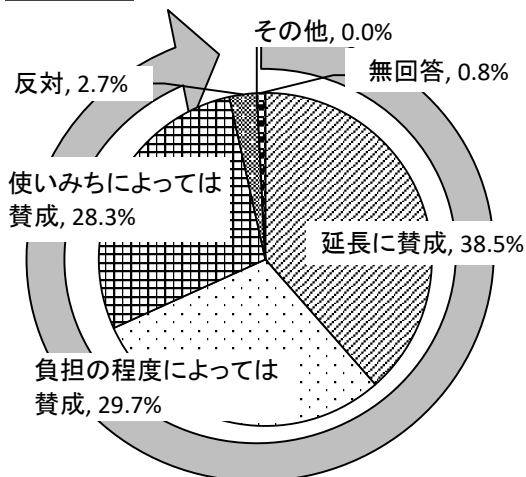
今回



条件付きを含め、96.1%が延長に賛成
(0.8ポイント上昇)

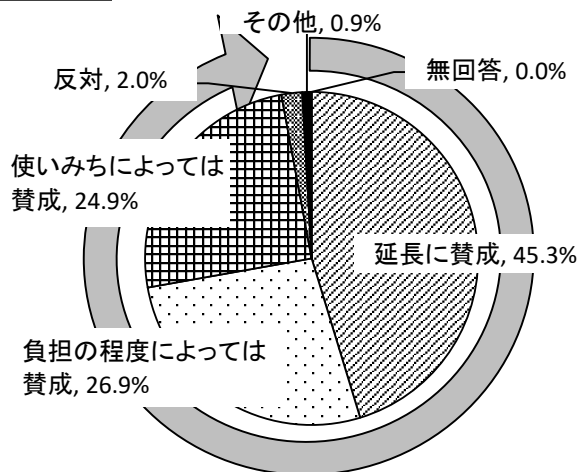
《企業》

前回



条件付きを含め、96.5%が延長に賛成

今回



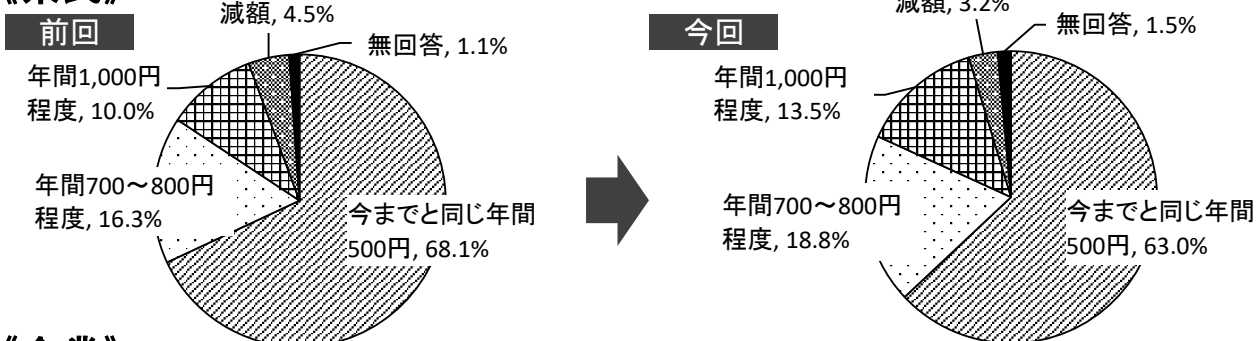
条件付きを含め、97.1%が延長に賛成
(0.6ポイント上昇)

(4) 「水と緑の森づくり税」の負担額について（1つ選択）

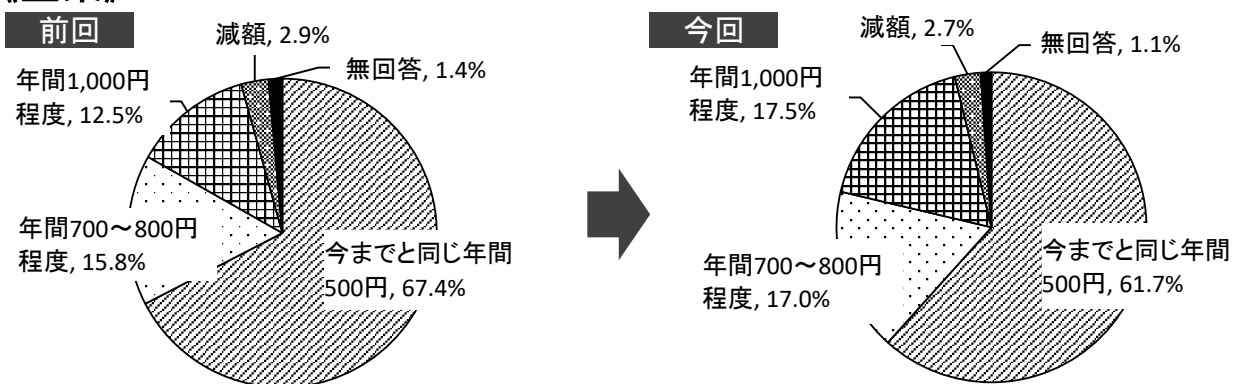
① 「水と緑の森づくり税」を延長した場合の負担額【個人】

- ・「今までと同じ」とする人の割合が、県民では63.0%（前回68.1%）、企業経営者では61.7%（前回67.4%）と前回調査同様、最も多いが、「増額(1.5倍, 2倍)」とする人の割合が、県民では32.3%（前回26.3%）企業経営者では34.5%（前回28.3%）と増加。

《県民》



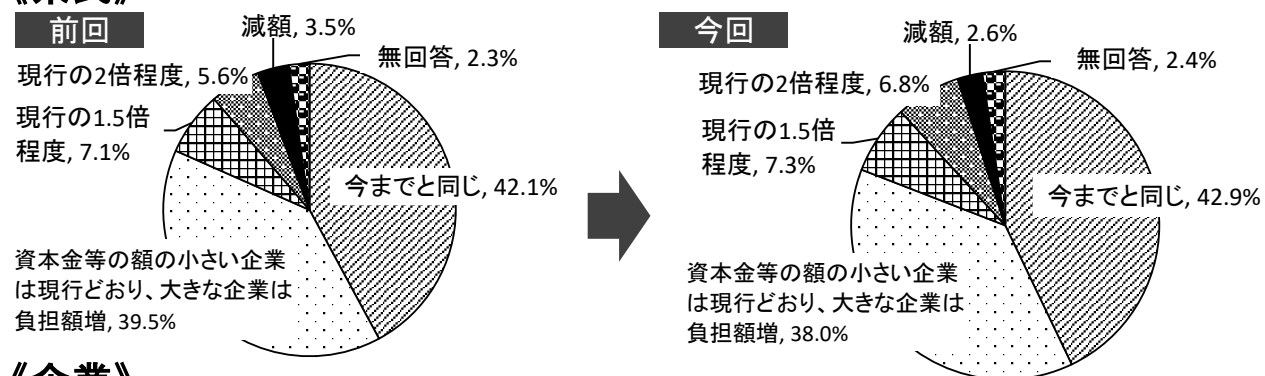
《企業》



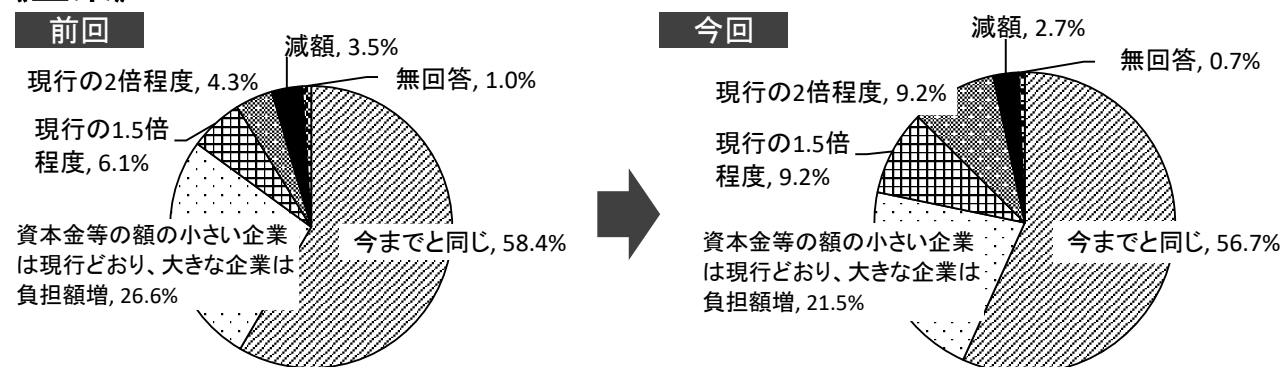
② 「水と緑の森づくり税」を延長した場合の負担額【法人等】

- ・「今までと同じ」とする人の割合が、県民では42.9%（前回42.1%）、企業経営者では56.7%（前回58.4%）と前回調査同様、最も多い。

《県民》



《企業》



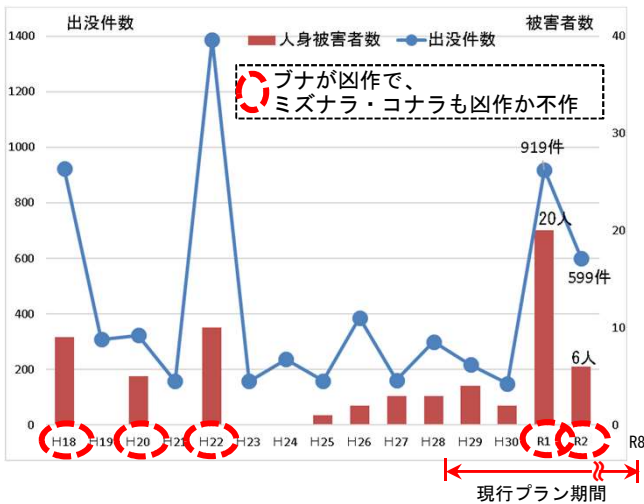
「とやまの森」をめぐる状況の変化

変化その1 野生動物の市街地等への出没と人身被害の増加

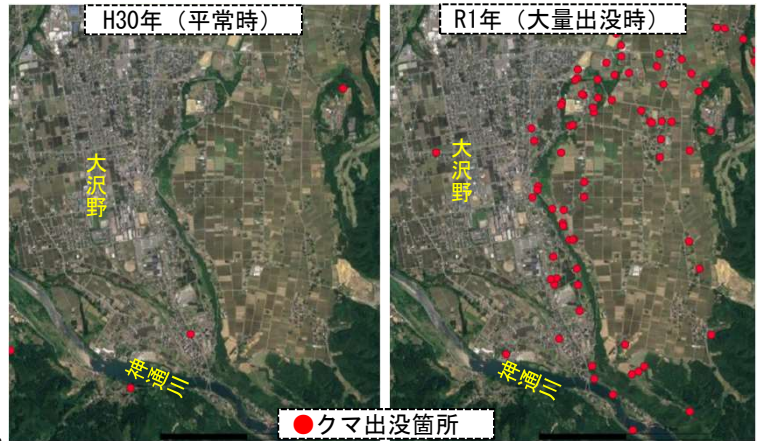
1-1 ツキノワグマの市街地への出没と人身被害の発生

- 【要因】
- ・ 餌となるブナ、ミズナラ等の凶作、不作年が続いた → 大量出没
 - ・ 河川敷や河岸段丘等の里山林を通り、平野部へ移動し、活動するクマが増加 → 人身被害の発生

○クマの出没件数と人身被害者数の推移



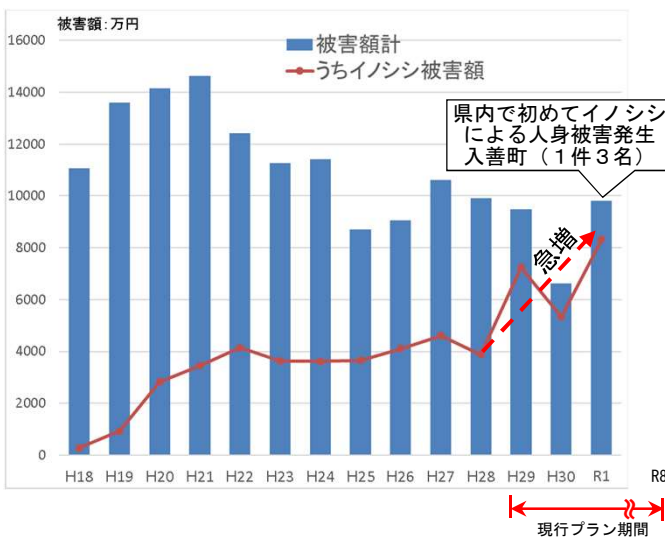
○河岸段丘周辺でのクマ出没状況



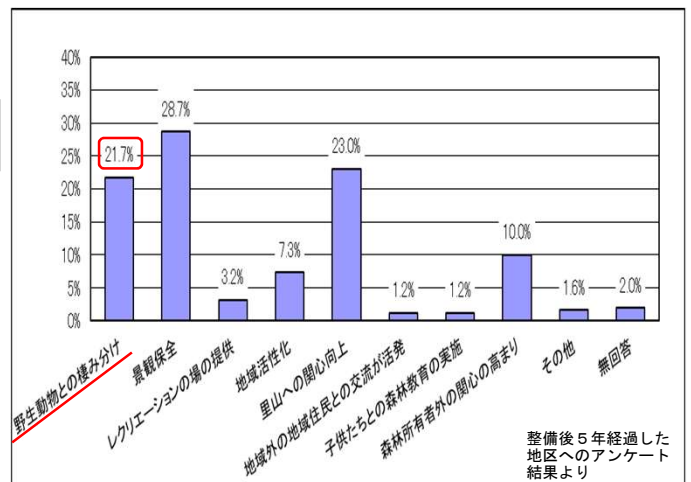
1-2 イノシシの市街地への出没及び農作物被害の高止まり

- 【要因】
- ・ イノシシの生息数の増加とこれに伴う行動域の拡大 → 被害の増加・常態化

○野生動物による農作物被害の推移



○里山再生整備事業を実施した効果について



野生動物出没の移動経路となっている河岸段丘等の里山林整備など新たな取り組みが必要

〔R3年度予算において、河岸段丘等の里山林を調査し、その整備方針と整備箇所を検討。〕

変化その2

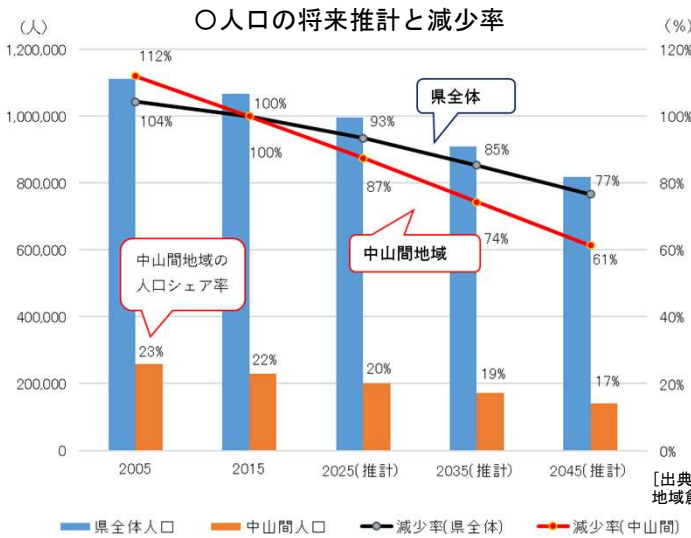
事業開始から14年が経過し、里山林整備における過疎化・高齢化等の影響が顕在化

【要因】・ 顕著な過疎化・ **高齢化による人手不足**

※2015年人口は2005年比で11%減（県全体4%減）

・ 草刈り等の維持管理支援が7年間で終了し **活動経費が不足**

再やぶ化、整備活動停滞の懸念



○ 高齢化等による人手不足で再度やぶ化した里山林



整備直後

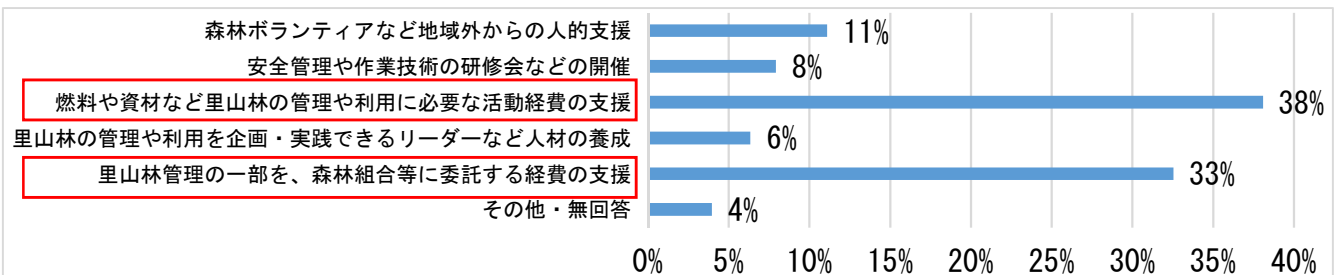


整備から約10年後

● 維持管理に対する支援継続の要望が多い

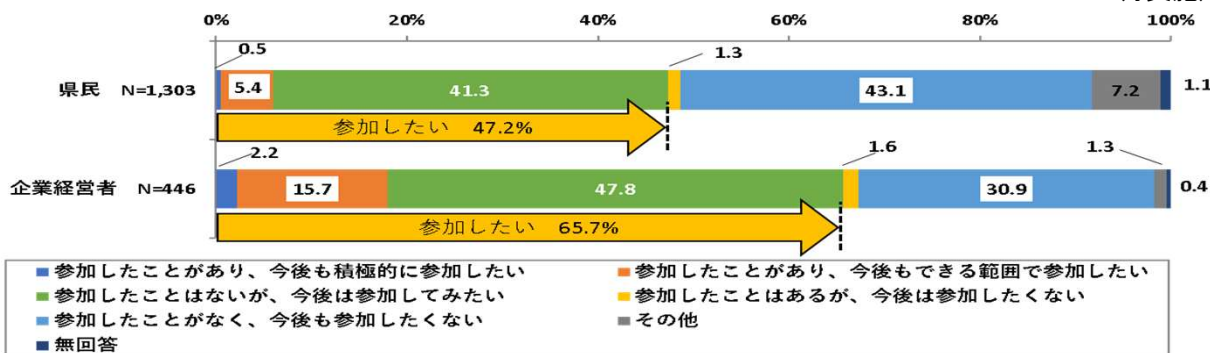
(地区へのアンケート結果では **71%** が支援継続が必要と回答)

Q具体的に、どのような支援があればよいと思いますか。



● 県民、企業は森づくりボランティアへの参加意識は高い

県民意識調査 (R2年12月実施) 結果より



地域のニーズに応じたきめ細かな支援の継続と幅広い世代の参加、交流人口の増加など、持続可能な森づくりに資する取り組みが必要

変化その3

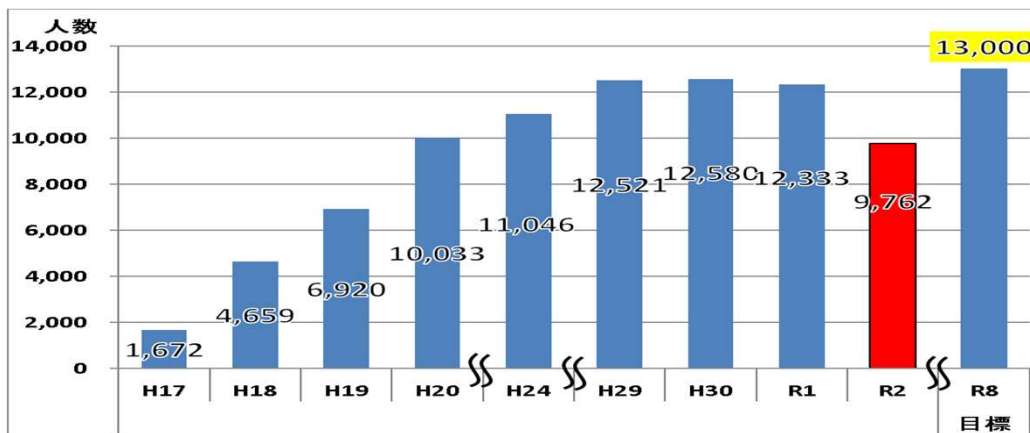
新型コロナウイルスの感染拡大により

- ① 森づくり活動が停滞
- ② 森林空間の利活用ニーズの高まり

- 【要因】
- ① 春先の森づくり活動時に緊急事態宣言で活動が制限
・ 多くの企業で森づくり活動が中止
 - ② 新たな生活様式のなか、3密回避のフィールドとして、森林空間に着目

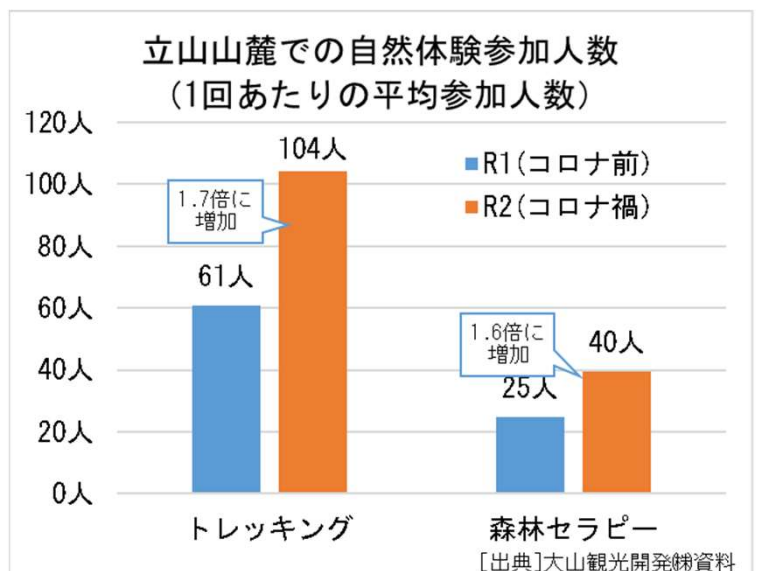
新たな森林との関わり

- ① 森づくり活動が制約を受け、年間参加延べ人数が大幅に低下。



森づくりの基礎から実践までを学ぶ「森づくり塾」も3密回避のため、受講人数が制限されたほか、企業からの参加が激減した

- ② 窮屈な生活を余儀なくされ、「3密」回避が可能な自然体験活動の重要性が高まる。



森の中でのリラクゼーションや環境教育、余暇など多様な分野で森林空間を利活用

オンラインによる森づくり活動の支援や「3密」を回避する自然体験活動への支援など新型コロナウイルスを契機とした、新たな森林との関わりに対する取り組みが必要

県民意識調査（R2年12月実施）では、森づくりの取組みを広くPRすべきとの意見が多く寄せられた

- 【要因】・従来のホームページやイベントなどでは**特定の者にしか周知されていない**
- ・興味のある人がホームページにアクセスするなどにより初めて情報が伝わる**待ち受け型のPR**

積極的な
情報発信

昨年12月に実施した県民意識調査では、県民2,500人に調査し、1,303人から回答があり、うち56人（4%）の県民から自由意見欄にPRに関する意見があった。

《自由意見欄より抜粋》

- ✓ 県民調査が来るまで、取組みを知らなかった。これから、多くの人が知り参加できるものが増えるといいなと思った。
- ✓ 大変重要な活動だと思います。ただ、この活動が県民に知れ渡っていない気がします。活動報告、PR等、興味ある、目を引く内容で知らせる必要があると思います。
- ✓ 活動の情報に普段触れることがない。特定の人しか知らない活動のような気がする。
- ✓ この質問用紙が届くまで、「水と緑の森づくり税」について知りませんでした。今後も必要な事業だと思いますので、SNSや子供も一緒に楽しんで学べる機会を作る等、県民1人1人が知る機会が増えればいいなと思いました。
- ✓ 県民一人ひとり環境保全を意識できるような広報を伝えてほしい（メディア・新聞・ラジオ・ネット・SNSの活用）。
- ✓ 私も含め県民の皆さんもだと思いますが、森林事業の認知度が低いと思います。大変重要な取り組みだと思いますので、多くの方に知っていただいてほしいと思います。
- ✓ 制度や仕組みについて積極的に賛成です。ただし、我々県民に実感がないため、折角の素晴らしい政策が広く認知されていないように思います。
- ✓ 個人としては、どんどん進めていてもらいたいです。優良無花粉スギ事業のことしか知らない現状でした。他の事業ももっとアピールしてください。ボランティア活動ももっとアピールしてください。機会があれば参加したいです。

森づくりに関する情報を積極的に発信し、森づくり活動の輪をさらに広げる取組みが必要

富山県森づくりプラン改訂（後期計画）の概要

※アンダーラインが今回のポイント

- 1 計画期間 平成29年4月から令和9年3月まで（10年間）
 【後期計画期間 令和4年4月から令和9年3月まで（5年間）】

2 とやまの森づくり基本指針

(1) 森林の整備及び保全の指針（変更なし）

県内の森林を4つに区分(下図のとおり)して多様な森づくりを目指す。



(2) 県民参加による森づくりの指針（変更なし）

計画、実行、評価、改善の各プロセスにおいて、幅広い県民の参加を得ながら進める。

3 とやまの森づくりの施策

(1) とやまの森づくり施策の方向

従来の施策による森林の整備及び保全を引き続き推進するほか、県民全体で支える森づくりとして以下の施策を重点的に推進する。

項目	重点施策	
水と緑に恵まれた県土を支える多様な森づくりの推進	①県民との協働による里山林の整備 ②奥地人工林の混交林への誘導 ③放置竹林の整備と竹資源の有効活用の支援 ④スギ伐採跡地への優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽 ⑤森づくりに必要な技術の開発と活用	
とやまの森を支える人づくり・森林資源の循環利用などの推進	①県森づくりプランの策定と市町村森づくりプランの策定支援 ②とやまの森づくりサポートセンターによる森林ボランティアへの活動支援 ③森づくりに関する専門的な技術を有する人材の養成と活用 ④森づくり活動の効果など森づくりに関する情報の発信 ⑤森林環境教育の推進など森林の大切さの普及・広報活動の推進 ⑥公共施設等の木造化等や県産材道具の導入支援などの木育の推進	

17 パートナリプで目標を達成しよう
 県民・企業・行政等のパートナーシップによる森づくり

(2) とやまの森づくり施策の目標 (目標年度: 令和8年度)

項目	現行	改訂	目標設定の考え方
①里山林の整備	2,000ha	<u>2,200ha</u>	【H29-R3 見込み】1,180ha、【R4-8 見込み】1,020ha ・「市町村森づくりプラン」に記載する面積から整備実績を除く面積を設定し、 <u>これまでのペースや河岸段丘等での整備を想定し200haを追加</u>
②混交林の整備	500ha	500ha	【H29-R3 見込み】300ha、【R4-8 見込み】200ha ・生産林として整備される森林の面積を除き、今後整備すべき面積を設定
③「立山 森の輝き」の植栽	460ha	460ha	【H29-R3 見込み】140ha、【R4-8 見込み】300ha ・苗木の生産計画を基に、花粉の飛散に強い影響を及ぼしている区域で、今後優先的に植栽すべき面積を設定
④県民参加による森づくりの年間参加延べ人数	13,000人	13,000人	【R1 実績】12,333人、【R2 実績】9,762人 ・現在のボランティア活動の定着を図るとともに、さらなる県民参加の取組を進めることを想定

(3) 「水と緑の森づくり税」を財源とした事業

変化その1・変化その2・変化その3

項目	事業名	事業内容	事業費		構成比 (%)
			5年間 (百万円)	年平均 (百万円)	
多様な森の推進	①里山再生整備事業	県民協働による里山林整備 新 クマ等の移動経路となる河岸段丘等での里山林整備 拡 地域のニーズに応じたきめ細かな支援の継続	839	168	40.8
	②みどりの森再生事業	過密人工林や人工林に侵入した竹林の整理	264	53	12.8
	③優良無花粉スギ「立山 森の輝き」普及推進事業	花粉症対策の一環として、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽、初期保育を支援	606	121	29.4
	小計		1,709	342	83.0
人づくり・森林資源の循環利用	④とやまの森づくりホトセンター活動推進事業	森林ボランティア等を総合的・専門的に支援 拡 オンライン森づくり塾によるボランティア支援	144	29	7.0
	⑤とやまの森づくり総合情報システム事業	県民への森づくり情報の提供	20	4	1.0
	⑥とやまの森づくり普及啓発推進事業	児童・生徒等を対象に「森の寺子屋」を開催 新 一般県民向けの公開講座などの開催	34	7	1.7
	⑦県産材利用促進事業	公共施設等の木造化や県産材遊具の導入支援など 拡 木育出前講座などによる木育のさらなる促進	89	18	4.3
	⑧県民による森づくり提案事業	県民が企画し実践する森づくり活動に支援 拡 3密を回避できる森林空間の利活用の促進	30	6	1.5
小計		317	64	15.5	
推進活動	⑨水と緑の森づくり推進事業	森づくり会議の開催、広報 拡 SNSを活用した広報や事業地のオープンデータ化 カーボンニュートラルに寄与する森づくりの取組を発信	30	6	1.5
合計			2,056	411	100

備考 5年間の税込見込み額1,960百万円、R3年度末基金残高96百万円

○ 水と緑の森づくり税の延長

1 課税期間 令和4年度から8年度まで
(5年間)

2 (1) 個人負担額 現行どおり 年間500円
(2) 法人負担額 現行どおり 資本金等の額に応じて、年額1千円~100千円

水と緑の森づくり税の法人等の年間負担額

資本金税区額分に	区分	
	100億円超	年間負担額
	100億円超	100,000円
	50億円超~100億円以下	80,000円
	10億円超~50億円以下	40,500円
	1億円超~10億円以下	6,500円
	1千万円超~1億円以下	2,500円
	1千万円以下	1,000円
年間税込額 (R1 実績)	個人	約2.85億円
	法人	約1.07億円
	計	約3.92億円

